

五ヶ瀬町 地域連携プロジェクト

～「九州脊梁山脈トレイルラン in 五ヶ瀬」満足度及び参加動機について～

岡本 大夢*

田中 靖久**

鈴木 康夫***

The report of the regional alliance project in gokase city

～From the Viewpoint of the participant motivation and Satisfaction of Trail runners～

by

Hiromu Okamoto , Yasuhisa Tanaka , Yasuo Suzuki

(Received October 31, 2013)

1.五ヶ瀬ハイランドリーグについて

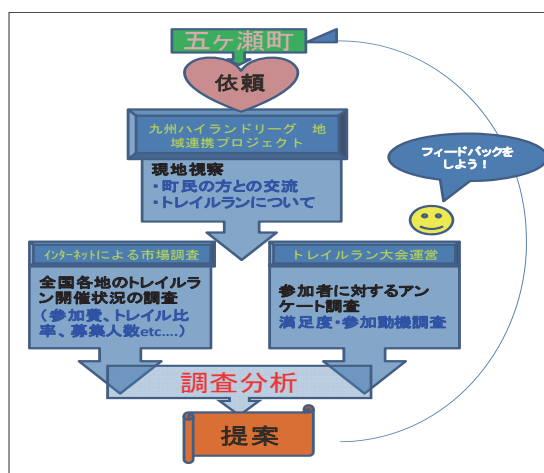


図1 地域連携プロジェクト発足の経緯

我々が五ヶ瀬町地域連携プロジェクトを行う事になった経緯は、2004年12月に五ヶ瀬町ハイランドスキー場の営業再開後を後押しするために、長崎県立大学が町長に提言を行い、2007年に「五ヶ瀬町の地域づくり（新たな地域づくり戦略）」が開催された。住民と町役場が地域づくり戦略を議論す

る中で、次世代を担う大学生の力を借りて、住民と学生が共に五ヶ瀬町の地域資源を活かす社会的起業を考え、実施していく取り組みが提案された。そして2009年からは長崎県立大学・宮崎大学・東海大学の三大学で「九州ハイランドリーグ」が開催されることになり、それに「東海大学田中ゼミ」が参加し、今年で参加してから4年目になる。

2. トレイルランサポートの経緯

～なぜ田中ゼミは、トレイルランに関する調査を行っているのか？～

2009年に宮崎県五ヶ瀬町からの依頼を受け、3大学合同（宮崎大学・長崎県立大学・東海大学）で「九州ハイランド大学リーグ」を開催。そこで、我々東海大学田中ゼミは、鞍岡地区を担当することになった。

鞍岡地区には、沢山の自然とその自然を利用した五ヶ瀬町ハイランドスキー場がある。

初年度の調査はスキー場の調査を中心に行った。五ヶ瀬町ハイランドスキー場は、株式会社五ヶ瀬ハイランドが運営する日本最南端のスキー場である。当初は「九州に天然雪のスキー場はできない」とい

* 経営学部経営学科研究生

** 経営学部経営学科教授

*** 観光ビジネス学科教授

われたが、バブル景気の後押しもあり、過疎化に悩む五ヶ瀬町が1990年に開場させた。※南国宮崎といえども、向坂山の標高1,600mを超える北斜面に位置するため、毎年12月上旬には滑走が可能となる。

しかし、バブル崩壊、不便な交通事情という影響はハンディとなり、大きく赤字が増加。

1998年に町営形態を断念し、地元雲海酒造が50%出資する形で経営に参画。

2002年、スノーボードの滑走を全面解禁し集客を集める。

第三セクター成立後から経営が好転、2004年には累積赤字を一掃させることに成功するものの、台風16号(2004年度)による土砂災害により交通網が寸断し1シーズンの間、営業が不可能な状況となっていた。

それ以来経営が傾き、現在は赤字経営である。

そこで田中ゼミは、2009年にスキー場活性化、夏場のスキー場の利用方法を提案した。(冬場のスキー場利用率アップのための仕掛けと知名度を上げるため)

2010年は、我々の提案(夏場のスキー場利用)と山都町の依頼から始まった五ヶ瀬町トレイルラン(山で行うランニング大会)を成功させるための提案を行った。

2011年も地域活性化を念頭に置きながら、五ヶ瀬町トレイルランニングの実態調査と新たな提案を行った。

3.トレイルランニングとは？

トレイルランニング(Trail running)は、ランニングスポーツの一種で、未舗装路の山岳地帯を走るランニングのことである。近年、マラソンブームや登山ブームの波にのって、両者の要素を併せ持つ「トレイルランニング」が流行の兆しをみせている。日本においては、本来のTrail runningとは、ずれたものも含めて広くトレイルランニングと表現していることが多くみられる。トレイルランニングは競

技としても浸透してきており、山岳マラソンや山岳耐久レースという枠で紹介されることもある。アメリカ合衆国では、草レースはもちろんのこと賞金レースが存在するほか欧州陸上競技協会の公認レースも存在する。日本でも少数ではあるが、定期的に開催するレースが存在する。

4.トレイルランニング調査について

我々は、2010年から「九州脊梁山脈トレイルランin五ヶ瀬」のサポートを行っている。

2012年9月に現地調査を実施した。トレイルランのコースを実際に歩き視察することで、我々が考える参加者の獲得方法や改善点などの提案を行った。2012年は、トレイルランニングが全国的にどのぐらい浸透しているのか、開催地域、参加総数、参加費などの現状把握を調査し、そこから我々が考える参加者の獲得方法や改善点などの提案を行った。

5.五ヶ瀬町トレイルラン開催の経緯

五ヶ瀬町トレイルランは熊本県山都町からの依頼を受けて2010年から同日に開催することになった。熊本県山都町のコースが約35キロなのに対し、宮崎県五ヶ瀬町のコースは約19.1キロと短めのコースになっており、山都町のコースを走るのには自信のない方への受け皿(初心者向けコース)として開催されることになった。

II.現状の把握 インターネットによる市場調査(全国で開催地の把握)

テーマ

「2012年度トレイルランニング大会現状調査」

1.目的

本研究は、現在トレイルランニングが全国的にどのぐらい浸透しているか、大会総数、開催地、開催時期、参加総数、参加費などの実態を明らかにすることを目的とした。そして、得られたデータから我々

規模な大会であることが、表 2 を見てわかる。

3.3 参加費用について（表 3）

表 3 参加費用について

トップ5	開催月	開催場所	参加費用
1	7	北海道遠軽町、上川町、東川町	22000
2	10	鹿児島県三島村黒島	19000
3	1	神奈川県相模原市	18000
3	9	新潟県、長野県（信越地方）	18000
5	11	長野県長野市	15350

ワースト10	開催月	開催場所	参加費用
1	8	新潟県湯沢町	0
2	2	群馬県嬬恋村	1000
3	5	長野県諏訪郡富士見町	1000
4	12	東京都青梅市	1500
5	8	山口県山口市	2000
5	4	新潟県三条市	2000
5	5	新潟県長岡市	2000
5	6	新潟県上越市	2000
5	7	新潟県新潟市	2000
5	5	群馬県嬬恋村	2000

H24.9.23 五ヶ瀬トレイルラン 参加費→7000円

表 3 は、参加費用のトップ 5 とワースト 10 を示したものである。参加費用の最も多い大会は 2012 年 7 月 21 日～22 日にかけて北海道遠軽町、上川町、東川町実施された「北大雪ロングトレイルツアー」で 2 万 2000 円、最も少ない大会は 8 月に新潟県湯沢町で行われた「SUZUKI X-adventure トレイルシリーズ SALOMON GALA 湯沢トレランリレー」で 0 円、全国平均は 7120.3 円（±4386.36）であった。この結果から、参加費用が高く設定されている大会は、開催期間が 2 日以上にわたるものや団体でエントリーのため高くなっているものがほとんどであった。多くの大会が 7000 円前後に設定されているが、距離が短かかったり、大会規模（募集人数）が小さい大会は、参加費の設定を低く設定している傾向にあった。

五ヶ瀬町の参加費は 7000 円で全国平均とほぼ同じ参加費である。

3.4 トレイル比率について（表 4）（※）

表 4 トレイル比率について

トップ6	開催月	開催場所	トレイル比率
1	6	北海道富良野市	100
1	9	宮城県仙台市泉区	100
1	3	埼玉県飯能市・宮沢湖周辺	100
1	8	山梨県北杜市	100
1	2	群馬県嬬恋村	100
1	3	山梨県小菅村	100

ワースト5	開催月	開催場所	トレイル比率
1	10	鹿児島県三島村黒島	15
2	3	和歌山県田辺市	29.5
3	8	山口県山口市	30
4	10	福井県若狭町	35
5	9	京都府与謝野町	40

H24.9.23 五ヶ瀬トレイルラン 比率→60%

表 4 は、トレイル比率のトップ 6 とワースト 5 を示したものである。トレイル比率の最も多いのは 100%で全 81 カ所中 6 カ所で開催されている。群馬県吾妻郡嬬恋村の「alpine KAZAWA 2012 ―冬の陣―」、宮城県仙台市の「泉ヶ岳アウトドアスポーツ 2012」、山梨県小菅村の「トレランビギナーを応援します！第 2 回まいたけトレラン in 小菅の湯」、北海道富良野市の「富良野トレイルラン 2012」、埼玉県飯能市・宮沢湖周辺の「第 1 回 NATHAN トレイルフルマラソン・チャンピオンシップ in 宮沢湖」、山梨県北杜市の「第 1 回もろきゅう味噌トレラン×フル駅伝 in みずがき山」が 100%のトレイル比率である。最も少ない大会は、2012 年 10 月 20 日～21 日に鹿児島県三島村黒島で行われている「第 2 回アイランドトレイル 2Days 黒島」で 15%、平均すると 80.2%（±18.49）である。

五ヶ瀬町のトレイル比率は 60%で、未舗装路と舗装路の割合は約 6：4 である。全国平均と比べて、低いトレイル比率となった。

※トレイル比率とは「全コースに対する未舗装路の割合」のことを言います。

3.5 エイドステーションについて（表5）

表5 エイドステーションについて

トップ5	開催月	開催場所	AS
1	7	山梨県富士吉田市	11
2	9	京都府与謝野町	9
3	9	新潟県、長野県（信越地方）	8
3	5	神奈川、山梨、静岡県小田原市、山中湖村	8
3	5	埼玉県小鹿野町	8

ワースト6	開催月	開催場所	AS
1	3	山梨県小菅村	0
1	4	東京都あきる野市	0
1	10	栃木県宇都宮市	0
1	4	大分県別府市	0
1	5	新潟県長岡市	0
1	7	新潟県新潟市	0

AS=エイドステーション

H24.9.23 五ヶ瀬トレイルラン AS→1カ所

表5は、エイドステーションのトップ5とないものを示したものである。エイドステーションの最も多い大会は7月27日山梨県富士吉田市で行われている「第65回富士登山競走」で、エイドステーションをおかない大会が全81カ所中6カ所もあることが明らかになった。

東京都あきる野市の「ハセツネ 30K」、新潟県長岡市の「TRCトレイルランナーズカップ～長岡大会～」、新潟県新潟市の「TRCトレイルランナーズカップ～新潟大会～」、大分県別府市の「第25回べっふ鶴見岳一気登山大会」、山梨県小菅村の「トレランビギナーを応援します！ まいたけトレラン in 小菅の湯」、栃木県宇都宮市の「宇都宮トレイルラン」、で行われている。平均は3.2カ所（±2.29）であった。

五ヶ瀬町は1カ所である。

※エイドステーションとは「マラソンや自転車を使ったロードレースで、水分や食べ物を補給できるようコースの途中に設けた救護施設」のことをいいます。

III. 2010～2012年九州脊梁山脈トレイルランニングのデータ

1. 申込状況について（表6）

表6 申込状況について

	第1回(H22.9.26)	第2回(H23.9.24)	第3回(H24.9.23)
申込数	99	117	149
キャンセル数	11	4	1
出走者数	88	113	148
男性	81	95	121
女性	7	18	27
最高年齢	76歳	71歳	69歳
備考	3大会連続出場者 男性 9名 女性 3名		

表6は、第1～3回大会の申込状況を示した表である。

初開催は充足率は66.00%であったが、第3回目にして99.33%とほぼ100%に近い充足率である。申込数が伸びていることから、トレイルランの人気と本トレイルラン大会の知名度が上がってきていると考えられる。

また、第3回目にして定員募集人数150人がほぼ充足されていることから、募集定員を増やすことやそれに伴い

コースの見直し、またはレベル別のスタートなど検討の余地があると考えられる。

（※熊本県山都町などはこのような見直しをし、参加者を増加させた。）

2. 参加者の居住地（表7）

表7 参加者エリア

都道府県	第1回(H22.9.26)	第2回(H23.9.24)	第3回(H24.9.23)
宮崎県	24	42	49
熊本県	18	24	52
福岡県	29	26	28
鹿児島県	7	6	5
大分県	1	7	2
佐賀県	4	0	6
長崎県	1	1	1
山口県	0	2	1
広島県	0	0	1
徳島県	1	0	0
香川県	1	1	0
大阪府	0	1	1
愛知県	1	1	1
東京都	1	1	1
千葉県	0	1	0
合計	88	113	148

表7は、参加者の現住地を示した表である。

8割近くの方が九州在住の参加者であった。

宮崎県・熊本県の今回の参加者が第1回目に比べ約

2倍に伸びており、五ヶ瀬町周辺地域の参加者が多いことが伺える。

より一層、参加者を増やすためには、宮崎県、熊本県、福岡県、鹿児島県以外の参加者を増やすかが今後の鍵になると考えられる。

3. 宿泊状況（表 8）

表 8 宿泊状況について

	第1回(H22.9.28)	第2回(H23.9.24)	第3回(H24.9.23)
町内宿泊者数	20	50	67

表 8 は宿泊状況示した表ある。

今回の宿泊者は、第 1 回目に比べ約 3 倍以上に伸びていることがわかる。

五ヶ瀬町のホテルや民宿（農泊）に宿泊していただくことは、地域資源を活かす

地域づくり・社会的企業などと言った地域活性化が期待できるといえる。より高い

経済効果を生み出すためには、宿泊して参加してくださるランナーの参加者数を増やす

取り組みが必要である。

3.2（表 7）の結果から見てもわかるように、五ヶ瀬町周辺地域からの参加者を増やすだけでなく、それ以外の地域の参加者を増やすための広報のやり方を検討すべきであると考えられる。

IV. 九州脊梁山脈トレイルランニング参加者に関する満足度及び参加動機に関する研究

1. 目的

1990 年代からマラソンブームや登山ブームの波に乗って開催されるようになったトレイルランニングだが、「大会に参加することでの満足度」、そして「どんな理由で参加するようになったのか？」を明らかにした報告は見当たらない。そこで本研究は、参加者の満足度及び参加動機を明らかにすることを目的として調査を行った。

2. 方法

2.1. 調査対象者

2012 年 9 月 23 日に開催された「九州脊梁山脈ト

レイルラン in 五ヶ瀬」の参加者を対象に調査を行った。

調査対象:参加者 130 名

調査実施者：107 名

回答率:82.31%

2.2. 調査方法、調査実施方法

質問紙調査による対面調査法で実施。

2.3. 調査実施期間

2012 年 9 月 23 日

2.4. 分析方法

統計分析は、Spss Ver6.1 J for Mac 日本語版を用い、単純集計、分析を行った。

2.5. 調査内容

属性、満足度、参加動機に関する調査。

3. 結果及び考察

3.1. 属性

3.1.1. 性別（図 3）

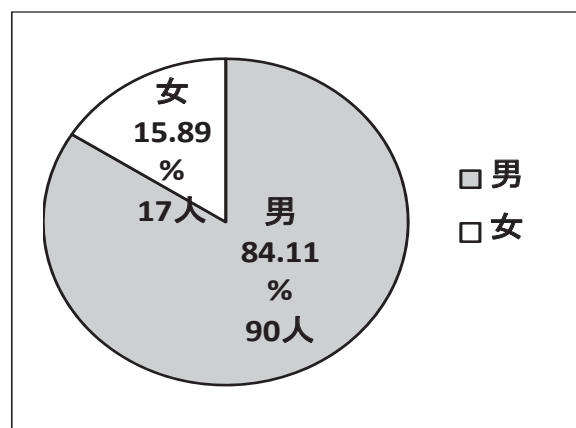


図 3 参加者の男女比 (N=107)

図 3 は、参加者を年代別に示した図である。アンケートに協力して頂けたのは、参加者 130 人の中 107 人、回答率は 82.31 %であった。そのうち男性は 90 人(84.11%)、女性は 17 人(15.89%)であった。

協力して頂いた方の約 8 割が男性、女性が約 2 割で、参加者全体の割合とほぼ同じくらいの比率である。

3.1.2.年代（表 9）

表 9 年代別参加者

年代	人数	%
30代	37人	34.58
40代	26人	24.30
50代	22人	20.56
20代	15人	14.02
60代	6人	5.61
10代	1人	0.94
合計	107人	100%

表 9 は、アンケートに協力して頂いた方を年代別に示した表である。

30代は 37 人(34.58%)、40代は 26 人(24.30%)、50代は 22 人(20.56%)の順に多い結果であった。参加者同様、10代と 60代は少なく、30代、40代、50代の壮年期の回答者が多い。

3.1.3.出身県（表 10）

表 10 出身別参加者

出身県	人数	%
宮崎	34人	33.66
熊本	34人	33.66
福岡	22人	21.78
鹿児島	4人	3.96
長崎	1人	0.99
大分	1人	0.99
山口	1人	0.99
広島	1人	0.99
大阪	1人	0.99
愛知	1人	0.99
東京	1人	0.99
合計	101人	100%

表 10 は、回答者を出身県別に示した表である。参加者は、宮崎県は 34 人(33.66%)、熊本県は 34 人(33.66%)、福岡県は 22 人(21.78%) の順に多い結果であった。参加者同様、全体の 9 割強が九州在住であった。

3.1.4.きっかけ(表 11)

表 11 参加のきっかけ

きっかけ	人数	%
インターネット	37人	40.66
知人の紹介	25人	27.47
ランネット	22人	24.18
雑誌	3人	3.30
ランナーズ	2人	2.20
ラン教室	1人	1.10
昨年出場	1人	1.10
合計	91人	100%

表 11 は、回答者の参加のきっかけを示した表である。

インターネットは 37 人(40.66%)、友人の紹介は 25 人(27.47%)、ランネットは 22 人(24.18%) の順に多い結果であった。

回答者の約 6 割がランネットを含むインターネットをきっかけに大会に応募したことが明らかになった。

3.1.5.参加回数（表 12）

表 12 参加者 参加回数

回数	人数	%
1回目	14人	15.39
2回目	35人	38.46
3回目	17人	18.68
4回目	14人	15.39
5回目	7人	7.69
6回目	0人	0
7回目	2人	2.20
8回目	1人	1.10
9回目	0人	0
10回目	1人	1.10
合計	91人	100%

表 12 は、回答者の参加回数を示した表である。参加回数は、2 回目は 35 人(38.46%)、1 回目は 14 人(15.39%)、3 回目は 17 人(18.68%)、4 回目は 14 人(15.39%)であった。

回答者の約 8 割が経験者ということが明らかになった。

3.1.6.運動・サークル(図 4)

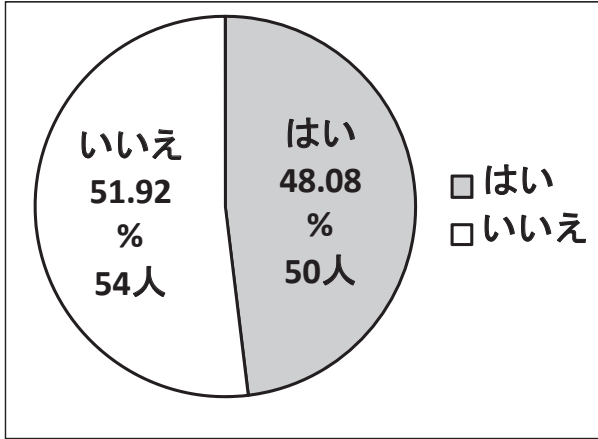


図 4 参加者の最終学歴の運動・サークル活動

図 4 は、回答者の最終学歴での運動・サークル活動の所

属を示した図である。

「はい」は 50 人(48.08%)、「いいえ」は 54 人(51.92%)という結果であった。

学生時代に運動部やスポーツ系のサークル活動をしていなかった方が約 5 割も回答している。

このことは、他の競技では考えにくく、マラソンやトレイルラン特有の傾向であると考えられる。

3.2. 満足度調査の結果

3.2.1.満足度（レース前）(図 5・表 13)

表 13 満足度（レース前）

	質問項目 (6項目)	はい	いいえ	未回答
1	RUNETの申込はスムーズでしたか？	91.82	1.82	6.36
2	案内の郵便物はわかりやすく、情報は十分でしたか？	90.91	4.55	4.55
3	大会事務局の電話などの対応はわかりやすかったですか？	81.82	0.91	17.27
4	会場までの案内マップや看板などはわかりやすかったですか？	81.82	12.73	5.45
5	受付、荷物預かりなど必要以上に待たされなかったでしょうか？	86.36	10.00	3.64
6	スタート前の開会式・競技説明は長すぎなかったですか？	80.91	14.55	4.55

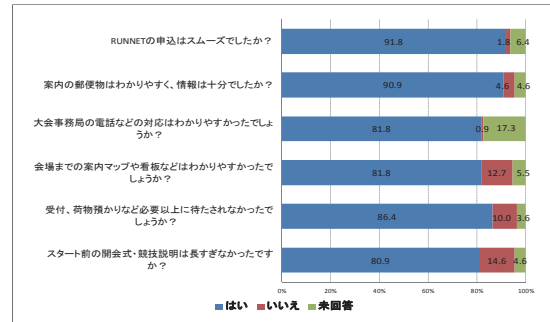


図 5 満足度（レース前）

全ての項目（6 項目）において、8 割以上の方から高い満足度を得ることができた。特に「RUNNET の申込はスムーズでしたか？」（91.82%）と、「案内の郵便物はわかりやすく、情報は十分でしたか？」（90.91%）の 2 項目については 9 割を超える高い満足度を得ることができた。

3.2.2.満足度（レース中）(図 6・表 14)

表 14 満足度（レース中）

	質問項目 (4項目)	はい	いいえ	未回答
1	コース上の案内が見えにくく、迷わなかったですか？	73.64	22.73	3.64
2	距離の表示は見えやすく、ペース配分に役立ちましたか？	90.91	5.45	3.64
3	コース上のスタッフの対応は良かったですか？	94.55	0.00	5.45
4	エイドステーションの食べ物・飲み物は満足でしたか？	90.00	6.36	3.64

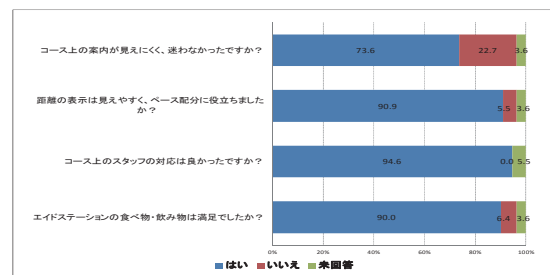


図 6 満足度（レース中）

全ての項目（4 項目）において、高い満足度を得ることができた。

「コース上の案内が見にくく、迷わなかったですか？」に関しては22.73%の方が、不満足という結果であった。

3.2.3.満足度（レース後）（図7・表15）

表15 満足度（レース後）

	質問項目(10項目)	はい	いいえ	未回答
1	コース設定は良かったでしょうか	90.91	3.64	5.45
2	コースの距離は適当でしたか	88.18	8.18	3.64
3	舗装路と山岳路(未舗装路)の割合(バランス)は良かったですか	78.18	17.27	4.55
4	ゴール後の休憩場所の設置状況は良かったでしょうか	83.64	10.91	5.45
5	順位確定・記録証の発行手続きはスムーズだったでしょうか	66.36	20.91	12.73
6	おもてなしの内容は良かったでしょうか	90.00	3.64	6.36
7	参加費(¥7,000)に見合った内容でしたか	65.45	29.09	5.45
8	参加賞(記念ラベルワイン)良かったでしょうか	89.09	2.73	8.18
9	次回の大会日程は同じ時期がいいですか	90.00	4.55	5.45
10	次回の大会にも参加されますか	83.64	5.45	10.91

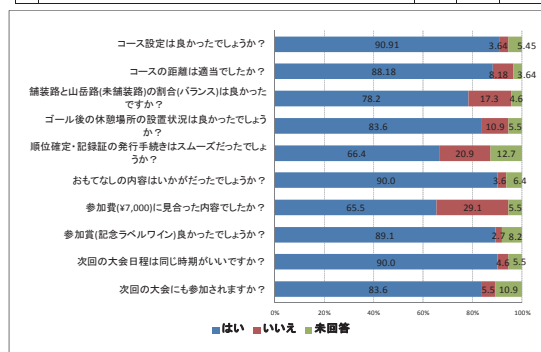


図7 満足度（レース後）

10項目中7項目において8割以上の方が「はい」と回答しており、高い満足度を得ることができた。しかし、「舗装路と山岳路（未舗装路）のバランスはよかったですか？」が17.27%、「順位確定・記録証の発行の手続きはスムーズだったでしょうか？」が20.91%、「参加費（¥7,000）に見合った内容でしたか？」が29.09%の方が不満足という回答が得られ、この3項目に関して課題があると考えられる。

3.2.4.参加動機（図8・表16）

表16 参加動機

	質問項目(33項目)	平均値	標準偏差 (SD)
1	運動不足の解消になるから	4.01	1.46
2	健康のために良いから	3.85	1.46
3	何事もやり抜く力が身につくから	3.76	1.45
4	いろいろな経験をしてみたいから	3.63	1.43
5	思いっきりからだを動かせるから	3.63	1.31
6	自分の能力の限界を確かめてみたいから	3.55	1.30
7	自分の好きな人がしているから	3.46	1.31
8	運動・スポーツをした後、気持ちが良いから	3.39	1.21
9	練習すると技術的に上達するから	3.37	1.20
10	意思を強くするから	3.35	1.21
11	自然とふれあえるから	3.30	1.25
12	いろいろな人と接することができるから	3.28	1.07
13	運動技術が向上するから	3.14	1.12
14	忍耐力を養成するから	3.04	1.10
15	仲間と心がふれあえるから	2.95	0.89
16	友達がいっぱいいるから	2.91	1.11
17	休日を楽しく過ごすことができるから	2.90	1.11
18	体力がつくから	2.86	1.00
19	スポーツマンシップを養成するから	2.84	1.02
20	他人がやらないことをやってみようから	2.81	1.01
21	皆と一緒に協力できるから	2.79	1.00
22	得意な種目だから	2.75	0.93
23	友達がいるから	2.73	0.96
24	プライドを満足させることができるから	2.72	0.95
25	日常生活が快適になるから	2.70	1.00
26	運動・スポーツをしているというだけで聞かえがよいから	2.69	0.95
27	自分の能力を他人に認めてもらえるから	2.61	0.89
28	カッコいいから	2.61	0.85
29	友達ができるから	2.60	0.84
30	余暇を有意義に過ごすことができるから	2.47	0.74
31	身体を活発に動かすことが好きだから	2.42	0.84
32	運動・スポーツをするのが好きだから	2.40	0.77
33	興味があるから	2.39	0.74

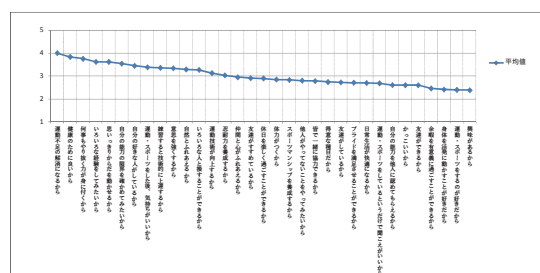


図8 参加動機（5段階リッカートスケール）

参加動機として、「運動不足の解消になるから」は4.01（±1.46）、「健康のために良いから」は3.85（±1.46）、「何事にもやり抜く力が身につくから」は3.76（±1.45）、「いろいろな経験をしてみたいから」は3.63（±1.43）、「思いっきり体を動かせるから」は3.63（±1.31）、「自分の能力の限界を確かめてみたいから」は3.55（±1.30）、「自分の好きな人がしているから」は3.46（±1.31）の順に平均値が高い結果であった。

この結果から、人のためや周りからの評価のために参加しているのではなく、自分のため（能力を高めるため）や純粋にスポーツが好きなのが、参加動機として挙げられていることが明らかになった。

IV.まとめ・提言

1.まとめ

大会が開催されて3年目にして、募集定員150名に対し149名とほぼ定員を満たす参加者の申し込があった。この結果は、本大会が認知され、参加された方の満足度が高かった結果であると考えられる。

1.2 現状把握調査及び満足度・参加動機の調査から今後の課題と改善

満足度（レース前・中・後）

全ての項目において高い満足度を得られたが、下記の項目において若干ではあるが満足度が低かった項目があった。そこで、我々は以下の改善案を提案する。

・「コース上の案内が見えにくく、迷わなかったですか？」（レース中）

改善案→コース案内の人員を増やすか、案内板の箇所を増やし表示の仕方を工夫する等の必要があると考えられる。

・「舗装路と山岳路(未舗装路)の割合(バランス)は良かったですか？」（レース中）

改善案→本コースは60%、全国平均は80.2%（±18.49）であることを踏まえて考えると、トレイル比率を上げるようなコース設定が必要である。

・「順位確定・記録証の発行手続きはスムーズだったでしょうか？」（レース後）

改善案→本年度は、昨年度からの反省を活かし、順位確定・記録証の発行手続きをスムーズに行うために、記録計測はICチップ方式を導入して計測を行った。

しかし、レース中にチップを落とす等のトラブルがあり、計測ができず、記録書は後日郵送することになった。

この結果から、山間部を走るトレイルランには不向きであると考えられ、導入の仕方には検討の余地がある。（例：リストバンド等）

・「参加費(¥7,000)に見合った内容でしたか？」（レ

ース後）

改善案→参加費は全国平均とほぼ同じなため参加費を下げるのではなく、上記の内容を改善することにより必然的に満足度が高まり、結果として満足のできる（参加費(¥7,000)に見合った）内容になるのではないかと考えられる。